

シェールガス、電力、再生可能エネルギー・・・今やエネルギーのニュースを目にしない日はありません。

私たちリム情報開発は1984年2月の創業以来30年、石油やガスの取引価格を取材し、デイリーレポートとして欠かさずことなく市場関係者に提供してきました。エネルギー業界で広く認識されている、いわゆる「リム価格」は、市場のインデックス（指標価格）として、石油事業者などに幅広く支持されています。取材記者は日夜、世界のエネルギー企業を相手に取材活動を続けています。

こうして導き出された「リム価格」は、原油、石油製品、ガス、石油化学製品、電力と多岐にわたり、マーケットレポートとして世界35カ国に発信されています。今回は、4人の先輩記者が、仕事のやりがいや楽しさ、苦勞などを熱く語っています。あなたの「仕事のイメージ」として参考にして下さい。



国内石油製品の若手記者 ～若いうちから責任ある仕事を～（須藤研二 / 国内石油製品チーム・2013年入社）



「それを調べるのがジャーナリストの仕事でしょ!」。他社の石油製品の実売価格を訊ねる石油ディーラーのA氏が、返答に窮する私に言いました。

学生時代から隠れた真実を暴くジャーナリズムというものに漠然とした憧れをもっており、記者職に絞って就職活動をしていました。ちょうど東日本大震災による福島第一原発事故をきっかけに日本のすべての原発が停止した時期で、エネルギーが社会や経済の土台になっていることを痛感。それが契機となり、新卒でリムに入社しました。

そんな経緯を知るA氏は、激励の意味も込めて言ってくれたのでした。私は九州とりわけ福岡市での石油製品の流通価格を日々調査しています。九州で石油の取引を行う石油メーカーや総合商社、専門商社、地場ディーラーなどに電話で取材し、各社の販売あるいは購入価格を聞き出し、その日の市況をアセスしてレポートにまとめています。

ただ、公にされたくない取引などは教えてもらえない場合がほとんど。こうした非公知の事実を聞き出すために日々悪戦苦闘しています。A氏に、「いくらで売っているのですか」と訊くと、「私にジャーナリズム精神を発揮されても困る（苦笑い）」と返ってくるなどからもその大変さが想像できると思います。その分、「書かないでよ」とこっそり教えてもらえたときは、喜びもひとしお。それがモチベーションになっています。

リムは若手のうちから責任ある仕事を任せてもらえる会社です。その分大変なことも多いですが、やりがいはあると思います。

化学石油製品の若手記者 ～日々の情報収集や勉強が大切～ (川田沙姫 / 化学石油製品チーム・2012年入社)



原油や天然ガスに化学反応を起こさせると、ペットボトルや衣服、タイヤなど私たちの身の回りにある様々な製品の「原料」をつくることができます。この「原料」となるのが、石油化学製品です。そして、こうした石油化学製品の極東および東南アジアにおける現物価格のアセスメントや市況動向を国内外の商社やメーカーといったマーケットプレーヤーへの取材を通し、日々発信するのが主な業務となります。

私はもともと、物を書く仕事がしたいと思っていたので、エネルギーの世界に記者という立場で関われるこの仕事にとってもやりがいを感じています。取材の際に気を付けていることは、幅広い視点で市場をみつけ、公平公正な取引価格をアセスすることです。

石油化学は私たちの暮らしに密着しているため、人々の暮らしの変化や景気動向は市場や価格に影響を与えます。一方で、世界の金融や経済の動きも影響してくるため、市場や取引価格は絶えず変化します。このように価格を形成する様々な要因を探っていると、いろんな物事が相互に関連し合っていて市場や私たちの暮らしは成り立っていることに気付かされます。

常に情報収集や勉強が必要となりますが、知的好奇心が旺盛な人であれば、こうした発見や驚きにたくさん出会うことができるリムの仕事をきっと魅力に感じると思います。

実は、私は大学で人間心理学を専攻しており、リムに入社当時はエネルギーや経済についての知識をほとんど持っていませんでした。ですが、リムには知識、経験ともに豊富な先輩方がたくさんいて、やる気さえあればいつでも力になってくれます。エネルギーについてよく知らないという人も、熱意があればきっと大丈夫！一緒に頑張っていきましょう。

LPGの中堅記者 ～世界の人と知り合える醍醐味～ (志賀 実 / LPGチーム・2012年入社)

私は2012年6月にリムへ中途入社しました。リムを転職先に決めた理由は、自分の経験を最大限に活かせると思ったからです。学生時代は新聞学を専攻し、6年間勤めていた前職ではLNG(液化天然ガス)の荷役業務に携わっていました。エネルギー業界で培った現場の知識を活かしながら、小さい頃からの夢だった文筆業で身を立てたいと思い、リムへの入社を決めました。

私は現在、LPG(液化石油ガス)チームに所属し、日々レポートの取材と執筆に明け暮れています。この仕事の醍醐味は何といっても、たくさんの方々を知り合えること。リムの取材先は中東の産ガス社から欧米のトレーダー、アジア各国の輸入業者、日本の商社や国内卸業者など、本当に多岐にわたります。

色々な立場の人から刻々と変化するLPGの相場を聞いていると、自分が業界の最前線に触れていることを実感しますし、シンガポールで開かれた会議に出席した際には、LPGを取り巻く状況は国によってこんなにも違うのかと驚きました。取材対象者とは数年にわたってお付き合いすることが多いので、公私ともども刺激を受けることは間違いありません。

リムは社員が500人もいるような、決して大きな企業ではありません。しかし、自分が成長したいと思ったら、どこまでも能力を伸ばせる会社です。誇張ではなく、やりたいことは本当に何でもできる会社です。一つだけ要求される資質は、人が好きであることではないでしょうか。リムの電話取材は相手との継続的な関係の上に成り立っていますし、レポートの作成も決して一人ではできません。相手を尊重し、自分も信じる。たくさんの人と触れ合い、自分の世界を広げたいというあなたを、リムは待っています。



LNGの中堅記者 ～大きく変化する相場動向を目の当たりに～ (植村和司 / LNGチーム・2004年入社)



私は入社10年目で、現在は液化天然ガス(LNG)のレポートを担当しています。2011年3月の東日本大震災を受け、安全上の問題から日本の原発が次々と停止され、現在ではすべての原発が再稼働できない異常事態となっています。

その代替として、経済性の面、および環境負荷の低い液化天然ガス(LNG)を燃料とした火力にシフトが起きました。この過程でLNGの輸入が急激に増加し、スポット取引についても世間からの注目を浴びることとなりました。そのスポット市場は需給が刻々と変化し、それに応じて相場もめまぐるしく乱高下します。

実際に取引に携わっている市場関係者の方々や日々、お話しして情報をいただき、その大きく変化する相場動向を目の当たりにできるのはこの仕事ならではのものです。みなさんもRIMに加わり、このエキサイティングな場所で働いてみませんか？

会社案内は[こちらをクリック](#)してください。